

悩まなくてもだいじょうぶ

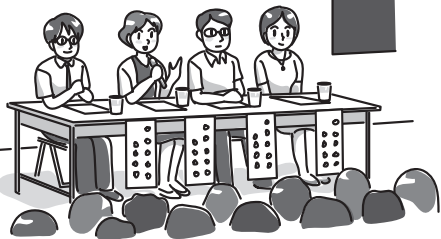


# 知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会  
代表 園部まり子

## アレルギーフォーラム

イラスト/清水直子



第46回

### 学校の食物アレルギー対応

## 地域を動かす母のフォーラム

### 垣根のない連携で

#### 安心の取り組みをめざす

昨年12月、東京・調布市の小学校で給食の誤食が原因で女の子が亡くなった事故以来、重篤な食物アレルギーの子やその保護者だけでなく、学校の先生など子どもにかかわる仕事に携わっている多くの方々間に不安が広がっています。

そんな不安を、異なる役割を担う人たちが連携する取り組みで安心に変えていこうというフォーラムが先月、大阪府狭山市で開催されました。素晴らしい内容でしたが、何より「すごい」と思ったのは、そのフォーラムをお母さんたちが企画し、行政の方々や専門医も垣根なく協力している壁のない連携でした。その取

り組みに学ぼうと、フォーラムには近畿一円から300人を超える行政関係者など多くの立場の方々、文部科学省からも代表が参加しました。

フォーラムは、食物アレルギーの診断と治療について医師が説明した後、食物アレルギーの子の入学が決まってからの学校の取り組みと、「エビペン」対応や教職員で情報を共有することの大切さについて、お二人の校長先生が現場の教員の不安をくみ取りながら進めてきた取り組みを担任教諭がクラスに食物アレルギーの子を受け入れる取り組みを報告しました。保護者の報告、緊急対応のシミュレーションを挟んで、除食対応を給食センターの栄養教諭が、また救急隊との連携の必要性について市消防本部の消防長（救急救



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

命士）が報告され、私も話をさせていただき、最後にこれまでの同市の取り組みに積極的にかかわってこられた小児アレルギーの専門医が、アレルギー症状への対応と連携の重要性について話しました。

### お母さんたちの思いが ギョッと詰まった1日に

必要な取り組みの全体が、取り組む人たちの熱い心とともに報告されたように思いました。またより良い連携へ議論も重ねられ、お母さんたちの思いがギョッと詰まった1日になりました。取り組みが後退してしまった地域もある中、子どもたちのために力を合わせようという試みが行なわれている、こうした動きが各地に広がることを祈るばかりです。